

平成30年3月29日

平成30年第一回都議会定例会を終えて（談話）

東京都議会自由民主党幹事長 秋田 一郎

第一回定例会は、平成30年度当初予算案をはじめ、知事提出の議案等に対し、精力的かつ集中的に審議し、本日終了しました。

はじめに平成30年度当初予算案について、申し述べます。

本定例会において、我が党は、知事提案の平成30年度一般会計予算及び中央卸売市場会計予算に反対いたしました。これは、美濃部都政下の昭和52年第一回定例会以来、41年ぶりのことです。

その理由は以下のとおりです。

- ・ 現在、都が取り組んでいる各局事業の大宗は、我が党が政策提言してきた内容を踏まえて作られています。このため、知事がどなたに変わろうと、我が党は一貫して都の予算案を支持してきました。このスタンスは、現時点においても、全く変わりはありません。
- ・ しかし、今回の平成30年度予算案では、議会審議において、看過できない事案が2件ありました。
- ・ 一つ目は、知事自ら特別顧問を廃止すると発言しながら、その顧問の報酬と旅費を予算の中に残したまま提案したことです。支出しないとした予算案を議会に審議させるというのは、二元代表制を愚弄したものであり、議会として断じて容認できません。
- ・ 二つ目は、築地再開発の検討会議に係る経費です。昨年度から「築地は守る、豊洲は活かす」として、再開発の検討を始めました。しかし、肝心の事業全体の方針や財源スキームを全く示さず議論を丸投げすることは、検討会を盾にして、決められない知事の責任を先延ばしにしているだけです。
- ・ このため、我が党は、この2件の予算案について減額を求める動議を提出しましたが、残念ながら否決されました。
- ・ よって、今回、責任政党としての大義を貫くため、残された選択肢である、知事提出の2つの予算案に対し、起立採決で反対いたしました。

これまで我が党は、都民の与党として、都民福祉の向上と東京の発展のため、全力で取り組んできました。これからも、その思いと信念は全く変わることはありません。むしろ、そうであるからこそ、都民のための都政実現のために、苦渋の決断をし、今回の予算案に反対したものです。

知事は、情報公開を都政改革の一丁目一番地とし、これまで記者会見の場でさまざまな情報発信をしてきました。我が党も、その公約の実現に大いに期待してきましたが、二元代表制の根幹である都議会においては、まったく真逆であり、都政のブラックボックス化・議会軽視そのものであります。

こうしたことから我が党は、都政の私物化をやめ、知事がこれまでの姿勢を改め、都議会と真摯に向き合うべきことを強く求めました。

次に、他の重要案件について、申し述べます。

- ・市場移転問題について

知事はこれまで本件に対する変節を繰り返しながら、本年10月11日に豊洲市場移転を強引に決定しました。しかし、その準備や調整は円滑に進んでいるとは言い難く、市場関係者の不安や疑問も払拭されていません。我が党は、引き続き都政の監視・チェック機能を十分に果たしていきます。

- ・2020年オリパラ大会について

大会開催まで残された時間は2年余りとなりました。しかし、大会期間中の輸送計画、道路整備等は未だ決まっておらず、まさに綱渡り状態です。都政の見える化・透明化を公約した知事に対し、正しい情報をしっかりと都民に伝え、全力で準備を進めるよう強く求めました。

- ・入札契約制度改革について

都内中小企業を苦しめる入札契約制度改悪により都政は停滞しています。しかし、知事は、中小企業の実態に耳を傾けず暴走・迷走を続けています。我が党は、直ちに元の制度に戻し、都民生活を持続的に支える制度とするよう提言しました。

- ・文化施策について

今回新たに構築した「トウキョウ・トウキョウ・フェスティバル」は、本議会の質疑において、最後まで納得し得る説明がなされることがなく、未だ不明瞭な部分が多く残っております。今後、早期に疑念を払拭し、事業の透明性を確保するよう求めました。

- ・環状二号線整備について

知事が立ち止まって先延ばした市場移転延期により、本線開通が間に合わず、大会時には片側1車線の暫定道路のみで、輸送力が3分の1になる事態が判明しました。国際公約である輸送計画に甚大な影響を及ぼすのは確実となり、このまま2020年大会を迎えることができるのか、問題提起し警鐘を鳴らしました。

最後に、我が党は、都の予算編成の原則そして知事が責任を持って事業を推進するという、都政運営の基本が、これ以上崩壊されていくことを見過ごすことはできません。これからも、都政運営を正常化させ、都民のための都政実現と発展に尽力し、東京の未来責任を果たしていくことをお誓い申し上げます。